

復興・兵庫こうべからの発信

関西学院大学災害復興制度研究所

ひょうごボランティアプラザ

室崎益輝

東日本大震災の復興に阪神・淡路大震災の教訓をどう発信するか？

- (1) 阪神・淡路大震災の教訓の中で「普遍性を持つ教訓」を伝える
- (2) 成功した体験だけでなく失敗した体験やできなかった課題についても伝える
- (3) 東日本大震災の特質や東日本被災地の特徴に適合するように伝える

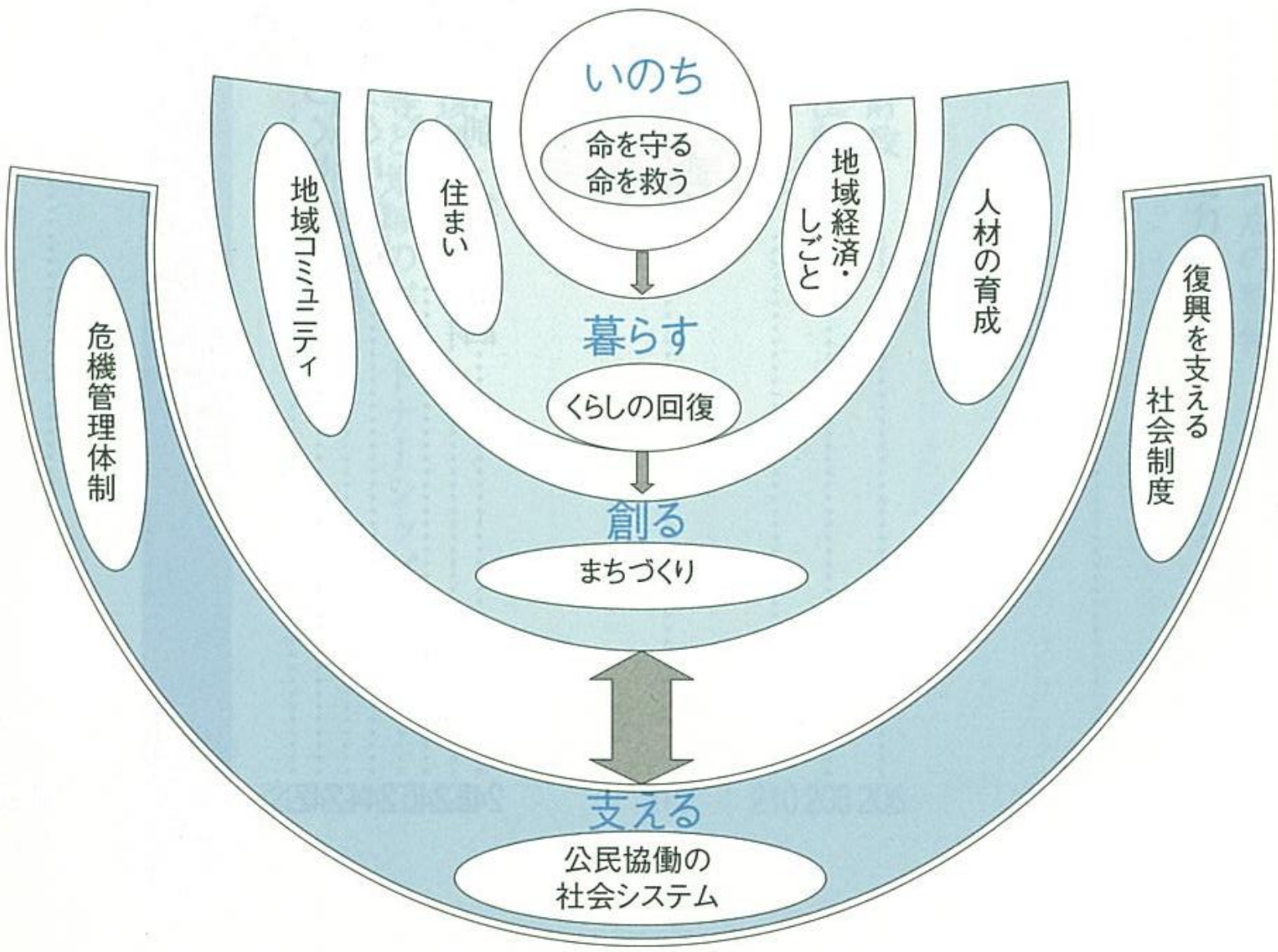
阪神・淡路大震災の教訓

復興フォローアップ委員会の四つの教訓

いのち、暮らす、創る、支える

- (1) いのちを守る・・・安全性優先の原則
- (2) 暮らしを生む・・・包括的再生の原則
- (3) 基盤をつくる・・・創造的復興の原則
- (4) 社会を支える・・・社会的変革の原則

阪神・淡路大震災の教訓の再整理



自然環境との共生の取り組み



新しい社会システムへの挑戦



阪神・淡路大震災の反省

- 巨大災害からの経験のない復興ということで、十分できなかったこと、やり残したことが少なからずあった
 - (1) コミュニティ持続の問題
 - 住宅再建の過程でコミュニティの継続が不十分
 - (2) 地域経済活性化の問題
 - 商店街の再生や地域のにぎわいづくりが遅れた
 - (3) 21世紀型都市創造の問題
 - コンパクトシティなどの理念の具体化が不十分

阪神・淡路大震災との違い

- 阪神・淡路大震災との違いを踏まえて、東日本大震災の復興のあり方を考える必要がある
 - (1) 被害の違い・・・巨大、広域、複合
 - (2) 地域の違い・・・都市規模、産業構造、経済状況、自然環境
- 産業再建を優先する、移転再建を志向する、環境共生を重視する